



初めての三座合同公演

乙女 文楽

おとめぶんらく

特別公演

2026年1月24日[土]・25日[日]

11:00 / 15:00 開演 (開場は各回開演の30分前)

横浜人形の家 あかいくつ劇場 (横浜市中区)

【料金】 前売 3700円 当日 4000円

前売開始: 2025年12月1日(月) 10時

*当日は開演1時間前より入場整理券を配布いたします。



主催 ■ (公財) 現代人形劇センター

お申し込み

現代人形劇センター Tel.044-777-2228
 ticket@puppet.or.jp
 チケットぴあ Pコード 538507 t.pia.jp
 イープラス eplus.jp

お問い合わせ

(公財) 現代人形劇センター
 TEL 044-777-2228 FAX 044-777-3570
 asia@puppet.or.jp URL www.puppet.or.jp

*ひとみ座倶楽部会員の方は料金の優待がございます。
 (取扱窓口・現代人形劇センターのみ)

「増補大江山酒吞童子」 戻り橋の段

「傾城阿波の鳴門」 順礼歌の段

演目 「義経千本桜」 道行初音旅

出演 ■ ひとみ座乙女文楽
 湘南座
 桐竹祥元



浄瑠璃 ■ 竹本越孝
 三味線 ■ 鶴澤駒治、鶴澤駒清
 (「傾城阿波の鳴門」、「増補大江山酒吞童子」)

指導 ■ 故 桐竹智恵子

■ 桐竹勘十郎
 (ひとみ座乙女文楽指導)



乙女文楽とは？

「文楽」は日本を代表する伝統人形芝居。1体の人形を3人で操ることで、感情やしぐさを繊細に表現します。それに対し「乙女文楽」は、1人の人形遣いによって演じられます。大阪で、大正末から昭和初期に文楽の人形遣い五世桐竹門造らによって誕生。1人で遣うために、人形の仕組みと操り方にさまざまな工夫がなされています。誕生当初は、名前のとおり少女たちによって上演され、人気を博しました。

乙女文楽・初めての三座合同公演

創始者桐竹門造の直弟子である 故桐竹智恵子が、戦後大阪から茅ヶ崎市に転居。公演活動の傍ら普及に尽力して複数の座が誕生しました。いまでは発祥の地大阪と並び、神奈川県にゆかりの伝統芸能となっています。2008年智恵子没後も現在まで、三座が活動を続けています。近年は三座がともに研修を重ね、今回初めて合同公演を開催することとなりました。

湘南座 ■1990年に結成。智恵子は1958年から順次、神奈川県の高校2校でクラブ活動を誕生させ、晩年まで指導を続けました。そのOBたちが中心となって結成されました。平塚市を中心とする公演活動の他、県立高浜高校の指導を続けています。(平塚市)

桐竹祥元 ■桐竹智恵子の孫にあたり、幼少からその芸が身近にありました。男性であるため、自ら演じるようになったのは、智恵子没後のこと。独自の活動を模索しています。また県立茅ヶ崎高校での指導を行っています。(茅ヶ崎市)

ひとみ座乙女文楽 ■1967年から人形劇団ひとみ座の女性座員が指導を受け、翌68年に初公演。以来約60年にわたって、国内外で公演しています。智恵子没後は、文楽の桐竹勤十郎の指導を受けています。昨年、若手男性演者が誕生。また地域の子どもの育成にも力をいれています。(川崎市)

■出演【三座合同】
 【静御前】桐竹祥元
 【佐藤忠信】冨木義之
 (ひとみ座乙女文楽)
 【狐】中村恵子(湘南座)

源平合戦の後、源義経は兄頼朝の不興を受けて奈良・吉野に隠れ住む。その義経を追って、恋人の静御前が家来の佐藤忠信を伴って旅をする道中のお話。途中の吉野山中で、静御前は義経を偲び、忠信は屋島の合戦で義経の身代わりとなった兄の壮烈な死を物語る。が、実はこの忠信には、ひとつの秘密があった...

浄瑠璃の「三大名作」に数えられる、文楽、歌舞伎でおなじみの演目。満開の桜の中で繰り広げられる、華やかで詩情豊かな舞踊劇。主演の二人を男性演者が務めます。乙女文楽初の試みです。



「義経千本桜」
 よしつね せんぼんざくら
 みちゆきはつねのたが
 道行初音旅

■ 演目紹介 *人形や物語の解説には手話通訳がつきます。

■出演【ひとみ座乙女文楽】
 【若菜実】鬼玄 亀野直美
 【渡辺綱】松本幸子(24日11時/25日15時)
 蓬田雅代(24日15時/25日11時)

ときは平安時代。京都一條の戻り橋には夜毎鬼が出る恐れられていた。ある夜、源頼光の家来、渡辺綱が戻り橋に差し掛かると、そこに美しい女が佇んでいた。綱は女を送り届けることとなるが、道すがら川面に映ったその姿は、なんと恐ろしい鬼女であった。綱は気付かぬ振りをして、鬼女と虚々実々の駆け引きを繰り広げ、ついには鬼が本性を現して戦いとなるのだった。

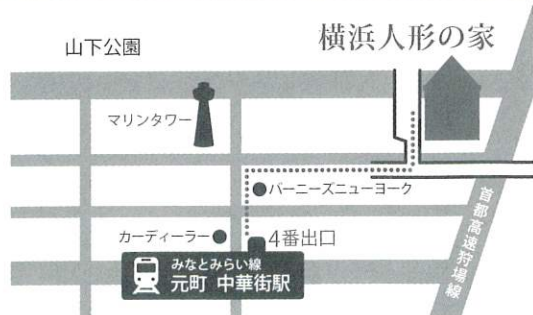
「増補大江山酒呑童子」戻り橋の段
 どうは おおえやま しゅてん どうじ もと ぼし だん

阿波の国の領主玉木家の内紛を題材に、母娘の切ない情愛を描く。全国各地の人形座で演じない座はないといつていい、屈指の人気演目。

「傾城阿波の鳴門」順礼歌の段
 けいせい あわ なると じゅんれいうた だん



●共催：横浜人形の家 ●後援：神奈川県/川崎市/神奈川県教育委員会/川崎市教育委員会/茅ヶ崎市教育委員会/平塚市教育委員会/横浜市教育委員会/(公財)日本伝統文化振興財団/(公財)ポーラ伝統文化振興財団/(公財)川崎市文化財団/(公財)かわさき市民活動センター/(公財)川崎市国際交流協会/NPO法人日本ウニマ(国際人形劇連盟日本センター) ●協力：川崎市民俗芸能保存協会/日本人形劇人協会



会場：横浜人形の家 あかいくつ劇場
 神奈川県横浜市中区山下町 18・4F

【電車】 みなとみらい線「元町・中華街」駅 4番出口より徒歩3分
 JR 根岸線「石川町」駅 元町口より徒歩13分
 【バス】 横浜駅東口または桜木町駅より市営バス 26系統「横浜人形の家前」下車
 市営バス 8・58系統「山下ふ頭入口」下車
 *車椅子での観劇は、事前にお知らせください。